

大江健三郎

水死

講談社  
文庫





講談社文庫

常州大学图书馆  
藏 永 苑 章

大江健三郎

講談社

〔著者〕 大江健三郎 1935年愛媛県生まれ。東京大学文学部仏文科卒業。大学在学中の'57年「奇妙な仕事」で東大五月祭賞を受賞する。以後、'58年「飼育」で芥川賞、'64年『個人的な体験』で新潮社文学賞、'67年『万延元年のフットボール』で谷崎潤一郎賞、'73年『洪水は我が魂に及び』で野間文芸賞、'83年『<sup>レイン・ツリー</sup>雨の木』を聴く女たち』で読売文学賞、『新しい人よ眼ざめよ』で大佛次郎賞、'84年「河馬に噛まれる」で川端康成文学賞、'90年『人生の親戚』で伊藤整文学賞をそれぞれ受賞。'94年には日本人として二人目のノーベル文学賞を受賞する。

すいし  
水死

おお え けんざぶろう  
大江健三郎

© Kenzaburo Oe 2012



講談社文庫

定価はカバーに  
表示してあります

2012年12月14日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3510

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

Printed in Japan

デザイン——菊地信義

本文データ制作——講談社デジタル製作部

印刷——株式会社精興社

製本——株式会社若林製本工場

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えます。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277432-1

# 目次

## 第一部 「水死小説」

序章 冗談 11

第一章 「穴居人」<sup>ザ・ケイヴ・マン</sup> 来たる 31

第二章 演劇版『みずから我が涙をぬぐいたまう日』のリハーサル 67

第三章 「赤革のトランク」 93

第四章 冗談はつらぬかれた 119

第五章 <sup>おおめまい</sup>大眩暈 155

## 第二部 女たちが優位に立つ

第六章 「死んだ犬を投げる」芝居 201

第七章 <sup>アフタマス</sup>余波は続く 241

第八章 大黃<sup>ギンギン</sup> 277

第九章 「晩年<sup>レイイト・ワーク</sup>の仕事」 311

第十章 記憶あるいは夢の訂正 339

第十一章 父は『金枝篇』に何を読み取ろうとしていたか？ 365

第三部 こんな切れっぱしでわたしはわたしの崩壊を支えてきた

第十二章 コギーの伝記と憑坐<sup>よりまし</sup> 401

第十三章 「マクベス問題」 431

第十四章 あらゆる手続きが演劇化される 463

第十五章 殉死 489



講談社文庫

# 水死

大江健三郎

講談社



# 目次

# 第一部 「水死小説」

序章 冗談 11

第一章 「穴居人」ザ・ケイヴ・マン 来たる 31

第二章 演劇版『みずから我が涙をぬぐいたまう日』のリハーサル 67

第三章 「赤革のトランク」 93

第四章 冗談はつらぬかれた 119

第五章 おおめまい 大眩暈 155

## 第二部 女たちが優位に立つ

第六章 「死んだ犬を投げる」芝居 201

第七章 アフタマス 余波は続く 241

第八章 大黃<sup>ギンギン</sup> 277

第九章 「晩年<sup>レイト・ワーク</sup>の仕事」 311

第十章 記憶あるいは夢の訂正 339

第十一章 父は『金枝篇』に何を讀み取ろうとしていたか？ 365

第三部 こんな切れっぱしでわたしはわたしの崩壊を支えてきた

第十二章 コギーの伝記と憑坐<sup>よりまし</sup> 401

第十三章 「マクベス問題」 431

第十四章 あらゆる手続きが演劇化される 463

第十五章 殉死 489

解説 小森陽一 528



# 水 死

海底の潮の流れが

ささやきながらその骨を拾った。浮きつ沈みつ  
齡と若さのさまざまの段階を通り過ぎ  
やがて渦巻にまき込まれた。

*A current under sea*

Picked his bones in whispers. As he rose and fell  
He passed the stages of his age and youth  
Entering the whirlpool.

—— T・S・エリオット、深瀬基寛訳

# 第一部 「水死小説」



# 序章 冗談